

2012・3 年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

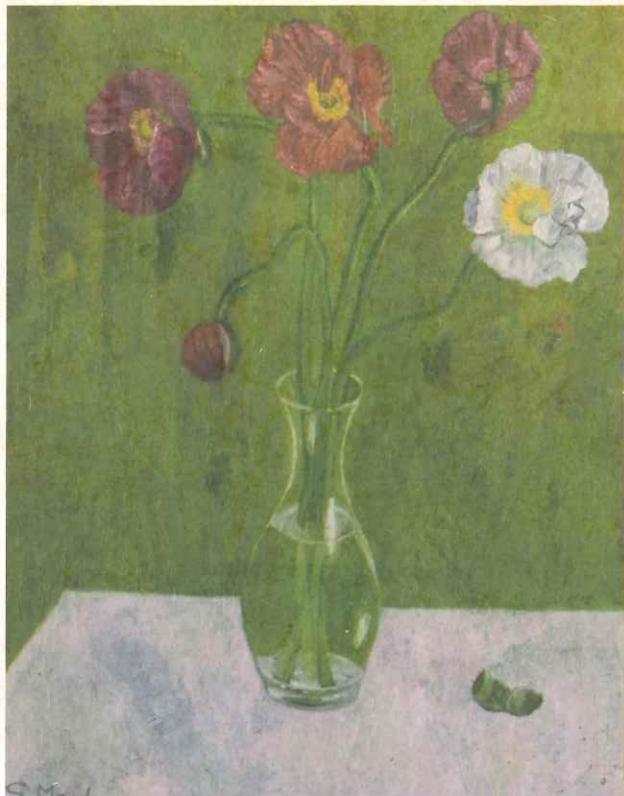
神戸学院大学地域研究センター主催講演会

精神科医の子育て論 I ・ II

いつもの暮らししがたから：無限の可能性を秘めて
乳幼児期・児童期・思春期を考える

服部 祥子

大阪人間科学大学名誉教授



地域女性のエイジングを支援するための問題提起

主たる研究者：人文学部人間心理学科 前田志壽代

精神科医の子育て論 I・II いつもの暮らしにから..無限の可能性を秘めて 乳幼児期・児童期・思春期を考える

第一部 精神科医の子育て論 I いつもの暮らしにから..無限の可能性を秘めて 乳幼児期を考える 1

1. 子どもが育つみちすじ～乳幼児期は人生の第一幕

2. 心の発達過程（0～5歳）～いつもの暮らしのなかで

(1) 乳児期（0～1歳）①乳児の無力さは意味がある（果てしない可能性を秘めて

②母は子へ、子は母へ、母子相互のかかわりのとうとさせ

③快楽（欲求充足）の体験は「生きる火種」になる（基本的信頼感と希望を培う

(2) 幼児前期（1～3歳）①自立の第一歩～欲望や意志のめざましい発動

②受動的愛から能動的愛へ～愛された子どもは他者を愛せる

③しつけと自律性～恥や疑いの体験もあってよい

①個の芽生えと反抗～独立心と依存心のせめぎあい

②センス・オブ・ワンダー～「感じる心」の大切さ

③遊びの効用～自発性と罪悪感のいずれもが大切

(3) 幼児後期（3～6歳）

3. 親と子の向き合い方

(1) 親と子は宿命的な出会い～無条件だからこそ喜びと切なさ

(2) 自然の情愛と理性的興味～愛と知性という二つのチャンネル

(3) 親の人生～子の人生～各々の独自性と道連れとしての味わい

(4) 森を見る目と木を見る目～社会の潮流（全体）と個の持つ独自性（個人）の双方に目を向けて